



STANDARD

WIDE

BAND RECEIVER

AX400B

ワイドバンドレシーバー

取扱説明書

- お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
- お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。
- 本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

3ページより

はじめに

13ページより

使いかたの基本を知ろう

21ページより

もっと自由にあつかうために

27ページより

拡張モードを使うには

33ページより

メモリー機能を使うには

39ページより

すばやく受信すめために

51ページより

ご参考に

日本マランツ株式会社

ご使用のまえに

安全上のご注意

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警 告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注 意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

⚠ 警 告

●単3のアルカリ電池・マンガン電池または当社のニッケド充電電池CNB401以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



●使用済みの電池は、火の中などに入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。



●濡れた手で電池を取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



●万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。煙がなくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



●万一、この機器を落したり、破損した場合は、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



●この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



⚠ 注意

●本機を受信機としての用途以外にはご使用
にならないでください。



●本機をご使用にならないときは、乳幼児の
手の届かないところで保管してください。



●旅行などで長時間、本機をご使用になら
ないときは、電池は本機から外してくださ
い。また外した電池は乳幼児の手の届か
ないところで保管してください。



●この機器が近くのテレビ、電子機器、医療
機器等に影響を与えるときは、ご使用にな
らないでください。



●本機のアンテナ部分が誤って、目にささ
らないようにしてください。



●お手入れの際は安全のため電源を切って
ください。



●湿気やほこりの多い場所、高温になる場所
に置かないでください。特に車中には放置
しないでください。火災・感電・故障の原
因となることがあります。



お知らせ

●本機は0.1MHzから1300MHzの間を受信する
ことができますが、以下の周波数の範囲は入力で
きません。
(周波数の範囲は以上～未満で表わしています。)

253 MHz～256 MHz 262 MHz～267 MHz 271 MHz～276 MHz

380 MHz～383 MHz 412 MHz～416 MHz 810 MHz～835 MHz

860 MHz～890 MHz 915 MHz～961 MHz

●無線通信の内容を窃用したり、他人に漏らすこ
とは、法律により禁止されています。

本書の読みかた

本書では、次の記号を使っています。



覚えていると便利なこと、またはアドバイスを示します。



参照するページを示します。



ファンクションキーを押しながらの操作を表わします。

以下の記号は、セットモード機能を表わします。この機能を使うと、本機をより使いやすい状態にセッティングできます。



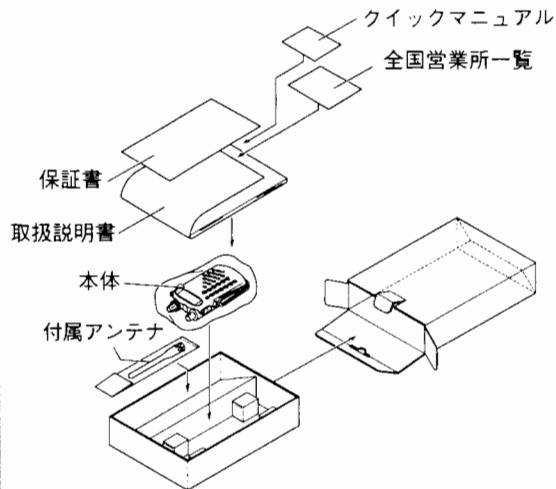
全てのモードの時に使えます。



拡張モードにしたときに使えます。

梱包品をご確認ください。

また、保証書にはお買い上げになった、販売店、日付が記入されていることをご確認ください。



もくじ

ご使用のまえに	i
本書の読み方	iii
梱包品をご確認ください	iii

はじめに 3

正しくお使いいただくために	4
アンテナを取り付けるには	5
電池を入れるには	5
電源を入れるには	6
まず、使ってみましょう	7
音量を調整するには	8
スケルチを調整するには	8
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)	9
すべての状態を最初に戻すには(オールリセット)	9
各部の名称と動作	10

使いかたの基本を知ろう 13

本機について	14
プリセットモードについて	16
プリセットメモリーを呼び出すには	16
VFO状態にするには	17
周波数を変更するには[1]	17
電波の型式を選択するには	18
プリセットメモリーを変更するには	18
受信するための各機能について[1]	19
サーチするには	20

もっと自由にあつかうために 21

表示部のランプを点灯させるには	22
照明の操作を切り替えるには	22
間違っ操作するのを防ぐには(キーロック)	23
キー操作音を鳴らさないようにするには	23
周波数ステップを変えるには(オートステップ)	24
周波数に合わせて電波型式を変更するには (オートモード)	24
電池を長くもたせるには(バッテリーセーブ)	25
自動的に電源を切るには(オートパワーオフ)	25
セットモードの機能を簡単に切り替えるには (マイキー)	26

拡張モードを使うには 27

拡張モードにするには	28
周波数を変更するには[2]	28
キーロック中にセレクターを使えるようにするには	29
入力信号の強さに応じてスケルチを開くには (RFスケルチ)	30
受信感度を低くするには(アッテネーター)	30
F Mナロー時のシグナルメーターの 振れる割合を変えるには	31
MHz単位で周波数を変えるには(ファーストステップ)	31

メモリー機能を使うには 33

メモリー機能について	34
メモリーするには	35
メモリーを呼び出すには[1]	35
メモリーを呼び出すには[2]	36
メモリーを消すには	36
メモリーを変更できないようにするには (メモリープロテクト)	37
メモリーをブロックごとに消すには	37
メモリーの内容を交換するには(メモリースワップ)	38
メモリー周波数のままVFO状態に戻るには	38

すばやく受信するために 39

受信するための各機能について[2]	40
サーチするには	41
ワンタッチサーチするには	42
サーチバンドメモリーの内容を確認するには	43
サーチバンドメモリーのバンクを切り替えるには	43
サーチバンドメモリーを書き替えるには	44
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[1] (サーチパスメモリー)	44
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[2] (サーチパスメモリー)	45
サーチパスメモリーの内容を確認するには	46
サーチパスメモリーを消すには	46
オールメモリースキャンするには	47
指定した周波数をスキャンするには (メモリースキャンメモリー)	48

メモリーをブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)	49
ポーズタイプの停止時間を変えるには	49
デュアルワッチを行うには	50

ご参考に 51

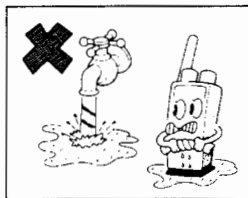
故障とお考えになる前に	52
セットモード一覧	53
周波数・周波数ステップ・電波型式関係表	54
アフターサービスについて	55
オプション(別売り品)の紹介	55
定 格	56
さくいん	57

はじめに

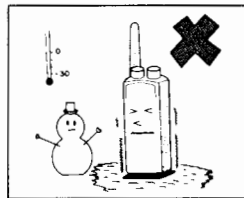
正しくお使いいただくために	4
アンテナを取り付けるには	5
電池を入れるには	5
電源を入れるには	6
まず、使ってみましょう	7
音量を調整するには	8
スケルチを調整するには	8
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)	9
すべての状態を最初に戻すには(オールリセット)	9
各部の名称と動作	10

正しくお使いいただくために

故障の原因になりますので、以下のことは行わないでください。



本機は、防滴構造(JIS防滴Ⅱ型)になっています。しかし、水や湿気の多い所では、ご使用にならないでください。また、水がかかった場合は、乾いた布などで、すぐに水分を拭き取ってください。



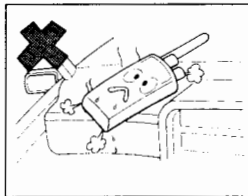
保冷庫の中など、低温の場所では使用しないでください。



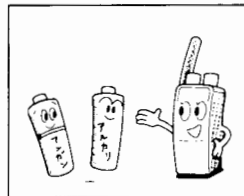
分解や改造は絶対に行わないでください。火災・感電・故障の原因となります。本機内部の調整箇所は、最良の状態に調整されています。手を触れないでください。



振動やホコリの多い所では使用しないでください。



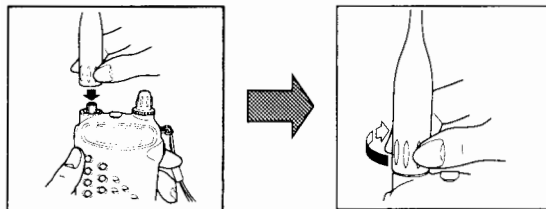
車のダッシュボードの上など、高温になる場所には放置しないでください。



使える電池は単3形のマンガン電池、アルカリ電池、または当社オプションのニッカド充電電池(CNB401)です。これ以外の電池は使わないでください。本機の動作電圧は2.2～3.5Vです。

アンテナを取り付けるには

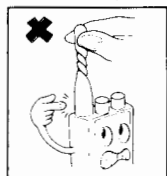
アンテナの根元を持って、本機のアンテナ端子に差し込み、時計方向(右回り)に回して締め付けます。



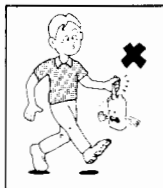
⚠ 注意

◆本機のアンテナ部分が誤って、目にささらないようにしてください。

◆故障の原因となりますので、つぎのことは行わないでください。

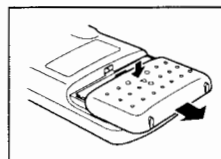


◆アンテナの上部を持って、取り付けを行わないでください。また、アンテナを回し過ぎないでください。

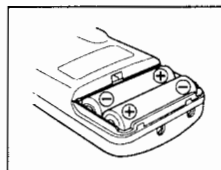


◆アンテナを握って、本機を持ち歩かないでください。

電池を入れるには



1 電池ブタをスライドせきて開ける



2 電池の極性を確かめ、電池を2本入れる

3 電池ブタをスライドせきて閉める

⚠ 警告

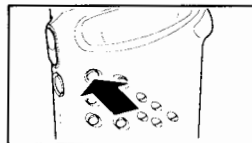
◆危険ですので、使用済みの電池は、火の中などに入れないでください。

⚠ 注意

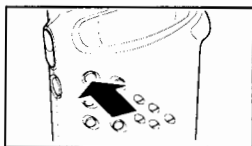
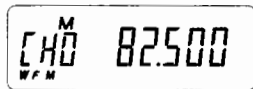
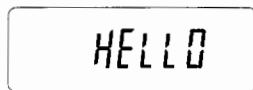
- ◆電池を交換するときは、電源を切ってください。
- ◆電池を入れるときは極性を合わせてください。
- ◆古い電池と新しい電池は混ぜて使用すると電池の寿命を短くすることがあります。

◆オプションのニッケド充電電池(CNB401)を使用する場合は、充電してからご使用ください。

電源を入れるには



- 1 本機前面の **[POWER]** キーを
1 秒以上押す
(報知音が鳴り、表示が出ます。)



- 2 電源を切るには、**[POWER]** キー
を 1 秒以上押す
(報知音が鳴り、表示が消えます。)



◆電池が消耗して電圧が約 2 V 以下になると、電源のオン・オフに関係なく、表示部に bAtt が表示されます。

乾電池をお使いの場合は、新しい乾電池と交換してください。オプションのニッケド充電電池をお使いの場合は、充電器で充電してください。

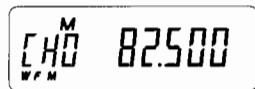
◆電源がオンの状態で電池が消耗すると、電源がオンとオフを繰り返すことがあります。このとき、**[POWER]** キーで電源が切れない場合は、本機から電池を取り出してください。

⚠ 注意

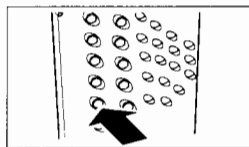
- ◆本機をご使用にならないときは、乳幼児の手の届かないところで保管してください。
- ◆旅行などで長時間、本機をご使用にならないときは、電池は本機から外してください。また、外した電池は乳幼児の手の届かないところで保管してください。

まず、使ってみましょう

本機のもっとも基本的な使いかたと機能について簡単に説明します。なお、正しくお使いいただくために、これより後のページをご覧ください。ここでは、お買い上げになった状態で電源を入れ、ご希望の周波数(例：439.520MHz)に合わせ、その周波数を本機に記憶させるところまでを説明します。



お買い上げになった状態で電源を入ると、82.5MHzが表示されます。



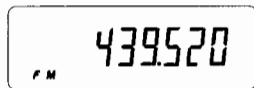
希望の周波数に近い周波数がプリセットされているキー(P16)を押します。



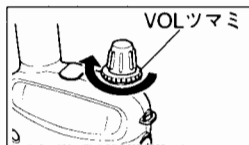
ここでは、⑤のキーを押し、433MHzを表示します。



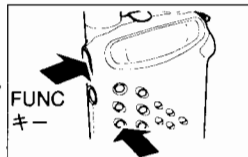
セクターを回し、希望の周波数に合わせます。



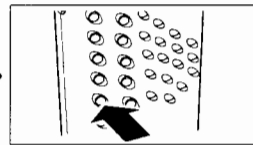
本機は、オートモード機能(P24)があり、周波数に合わせて、受信する電波型式が変更されます。



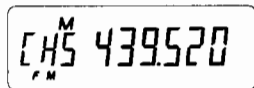
VOLツマミ(P8)をゆっくり回し、聞きやすい音量にします。



電波型式が違って音が聞こえないときや、ひずむときはFUNCキーを押しながら②キーを押して電波型式を変更します(P18)。



本機に新しい周波数を記憶させたい場合は、その周波数を記憶させたい数字キーを2秒以上押します。



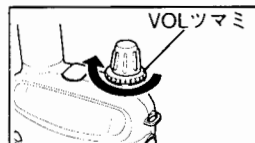
これで、プリセットメモリー(P16)が変更され、新しい周波数が記憶されました。

同様の手順で、周波数を変えたり、プリセットメモリーを変更することができます。

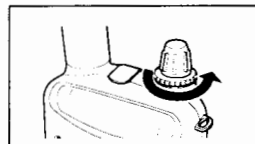


◆お買い上げ時は、本機の運用モードはプリセットモード(P14)になっています。このモードを拡張モードに変更する(P28)ことで、より多くの機能が使え、希望する周波数を早く見つけることができます。

音量を調整するには



- 1 音量を大きくするには、VOL ツマミを時計方向に回す



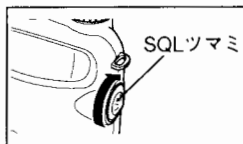
- 2 音量を小さくするには、VOL ツマミを反時計方向に回す

⚠ 注意

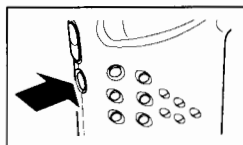
- ◆ 音量は、大きくならないようにしてください。特に本体スピーカーを使った後に、イヤホンなどを使うときは音量を下げてください。

スケルチを調整するには

- 信号を受けていないときは、「ザー」という音がでます。この音を消すのがスケルチです。キーの操作によりスケルチを一時的にオフすることもできます。



- 1 SQLツマミを右側にゆっくり回す
- 2 「ザー」という音が消える位置で、ツマミをとめる



- 3 スケルチを強制的にオフするには、[SQL OFF] キーを押す（押している間、「ザー」という音が出ます。）

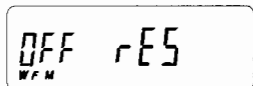


- ◆ SQLツマミを回し過ぎると、弱い信号を受けることができないことがあります。
- ◆ 信号が弱く、受信音が途切れるときは [SQL OFF] キーを押し続けてください。連続して受信音が聞けます。ただし、受信音には「ザー」とい音が混ざって聞こえることがあります。
- ◆ スケルチオフ：「ザー」という音が出ている状態をいいます。
- ◆ スケルチオン：スケルチの操作により、「ザー」という音が出ていない状態をいいます。

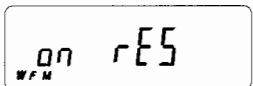
設定を最初の状態に戻すには (VFOリセット)

- メモリーの内容はそのまま、お買い上げになった状態に戻すことができます。これをVFOリセットと呼びます。間違った設定をしてしまい、もとの状態に戻せないときなどにご利用ください。

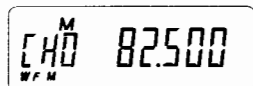
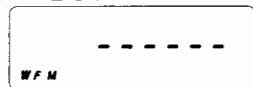
- F** +  **1** [FUNC] キーを押しながら、[OSET] キーを押す
2 セクターを回し、表示を OFF rES にする



- F** +  **3** [FUNC] キーを押しながら、セクターを回し、表示を on にする

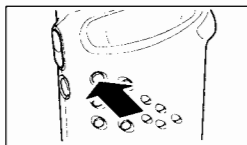


- F** +  **4** [FUNC] キーを押しながら、[POWER] キーを押す
('ピー'音がします。)
5 キーから手を離すと、表示部が初期状態に戻ることを確かめる

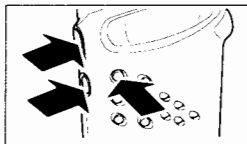


すべての状態を最初に戻すには (オールリセット)

- メモリーの内容もすべて消去し、お買い上げになった状態(初期状態)に戻すことができます。これをオールリセットと呼びます。



- 1** [POWER] キーを押し、電源を切る

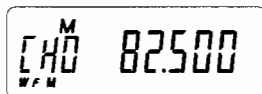


- 2** [FUNC] キーと [SQLOFF] キーを押しながら、[POWER] キーを押す
(表示部が全表示します。)

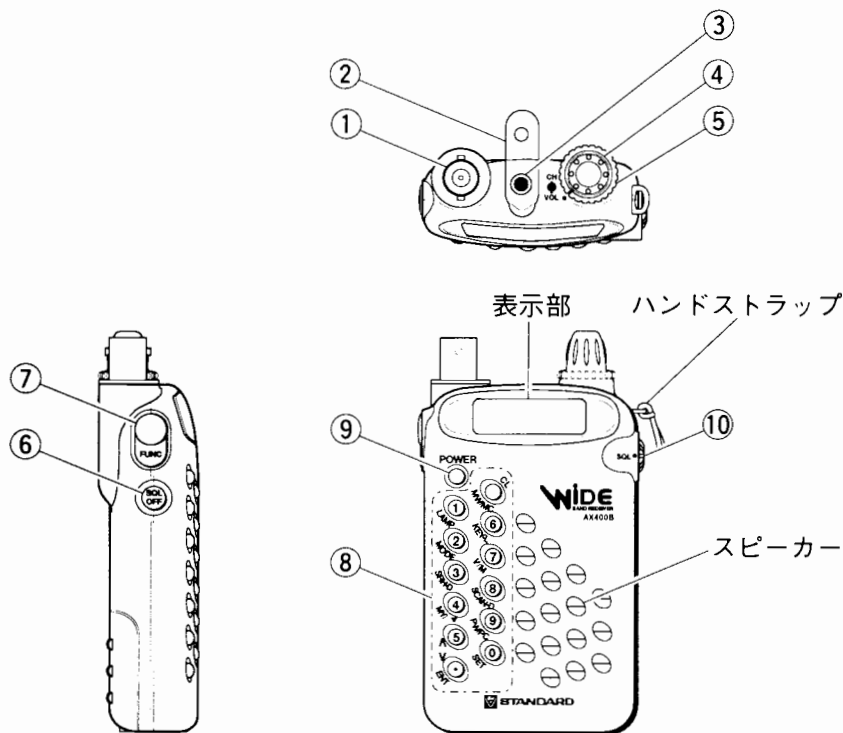
- 3** キーから手を離すと、表示部が初期状態に戻ることを確かめる



(約3秒)



各部の名称と動作



① アンテナ接続端子(BNCタイプ)

付属のアンテナをここに接続します。

② 防水キャップ

スピーカー端子を使わないときは、必ずこのキャップを閉めてください。

③ 外部スピーカー端子

オプションのスピーカーを接続します。

④ セレクター

このつまみを回し、周波数を変更します。また、各種の設定を行うときに、設定内容を変更します。

⑤ VOLつまみ

このつまみを回し、音量を調整します。

⑥ SQL OFFキー

このキーを押している間、スケルチオフになります。

⑦ FUNCキー

このキーを押している間、各種の特別機能が設定できます。

⑧ 数字キー

◆ **[P]** はプリセットモード時、**[E]** は拡張モード時を表わします。

1 LAMPキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと、表示部のランプが5秒間点灯します。

[P] : メモリーアドレス1の呼び出し

[E] : 数字1の入力

2 MODEキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと、電波の型式をFM、FMワイド(WFM)、AMから選択できます。

[P] : メモリーアドレス2の呼び出し

[E] : 数字2の入力

3 SHR・Dキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと、サーチを開始します。

[P] : メモリーアドレス3の呼び出し

[E] : 数字3の入力

4 MY/▼キー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと、マイキーに登録したセットモード機能を切り替えます。

[P] : メモリーアドレス4の呼び出し

[E] : 数字4の入力

[E] : スキャン中に**[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、スキャンとメモリスキャンメモリーの切り替え

5 $\wedge$ キー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと、サーチする範囲の片一方の周波数(周波数A)が設定されます。

[P] : メモリーアドレス5の呼び出し

[E] : 数字5の入力

6 KEY・Lキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと、キーロックの入/切りを行います。

[P] : メモリーアドレス6の呼び出し

[E] : 数字6の入力

7 V/Mキー

[P] : メモリーアドレス7の呼び出し

[E] : 数字7の入力

[E] : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、VFO状態とメモリーモードの切り替え

8 SCAN・Dキー

- [P]** : メモリーアドレス 8 の呼び出し
- [E]** : 数字 8 の入力
- [E]** : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、スキャンの開始

9 PW/PCキー

- [P]** : メモリーアドレス 9 の呼び出し
- [E]** : 数字 9 の入力
- [E]** : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、サーチパスの書き込み状態への切り替え

0 SETキー

- [FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、セットモードを呼び出します。

- [P]** : メモリーアドレス 0 の呼び出し
- [E]** : 数字 0 の入力

・V ENTキー

- [FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、サーチする範囲の片一方の周波数(周波数b)が設定されます。

- [E]** : 小数点(.)の入力
- [E]** : このキーを押すと小数点以下の周波数決定

CL MW/MCキー

- [P]** : このキーを押すと、VFOモードになります。
- [E]** : このキーを押すと入力途中の状態をキャンセル
- [E]** : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、メモリー書き込み状態への切り替え

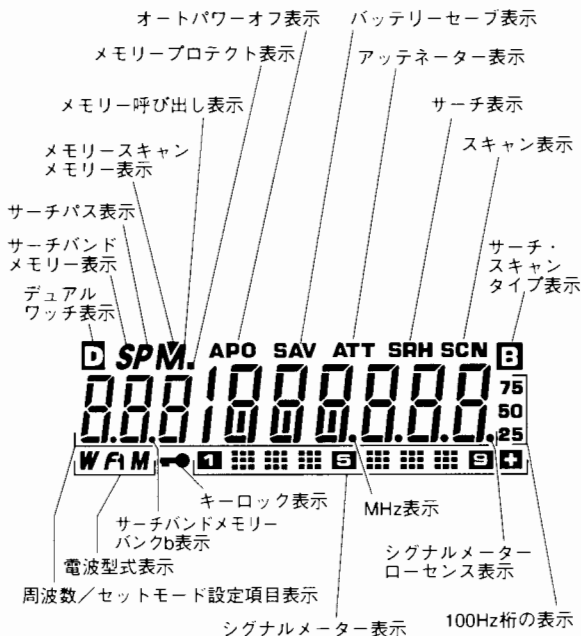
⑨POWERキー

このキーを押し、電源の入/切りを行います。

12 ⑩SQLツマミ

このツマミを回し、スケルチを調整します。

表示部

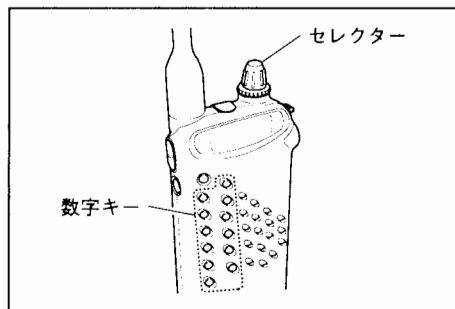


使いかたの基本を知ろう

本機について	14
プリセットモードについて	16
プリセットメモリーを呼び出すには	16
VFO状態にするには	17
周波数を変更するには[1]	17
電波の型式を選択するには	18
プリセットメモリーを変更するには	18
受信するための各機能について[1]	19
サーチするには	20

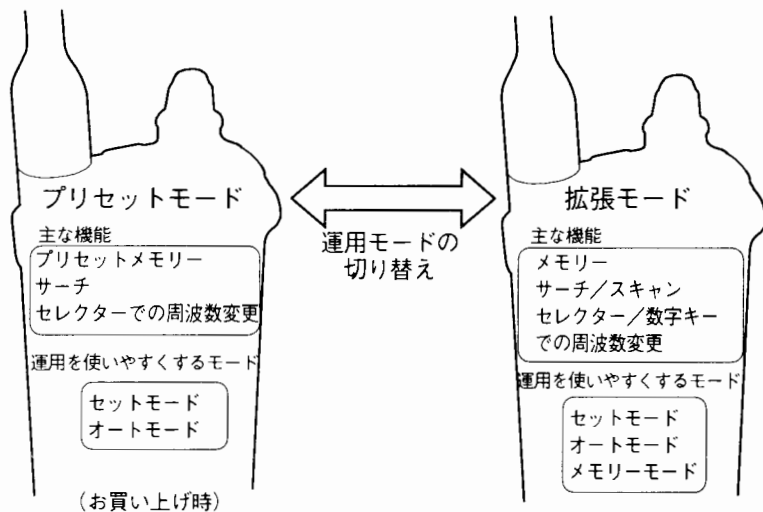
本機について

- 本機(AX400B)は、100kHzから1300MHzのAM、FMナロー(アマチュア無線など)、FMワイド(一般のラジオ放送など)が受信できます。
- 本機は、プリセットモードと拡張モードの2つの運用モードを持っています。
- お買い上げになった直後は、本機はプリセットモードになっています。このモードでは、FM放送局やアマチュア無線などの主要な周波数があらかじめ数字キーに書き込まれ(プリセットされ)ています。(P16)メモリーから呼び出した周波数は、セクターを使って変更できます。また、変更した周波数を好きな数字キーに書き込むこともできます。(P18)また、受信したい周波数をより早く探すためにサーチ機能があります。(P20)



- 本機のモードをプリセットモードから拡張モードに切り替えると、数字キーを使って周波数を直接入力できます。そして、受信したい周波数をより早く探すためのサーチやスキャンが使えます。また、このモードのときは、メモリーには800波の周波数が書き込めます。また、メモリーを整理するためのメモリスワップ機能があります。
- 本書では、拡張モードにしたときに使える機能を28ページから50ページの間に説明しています。
- 本機では、プリセットモードと拡張モード以外にも、以下のようなモードがあります。
セットモード(P53)
本機をより使いやすくするために、機能を設定したり、その機能する条件を変えるモードです。ただし、プリセットモードでは、一部使えない機能があります。
オートモード(P24)
設定した周波数に適した電波型式(モード)を設定する機能です。
メモリーモード(P34)
拡張モードにおいて、メモリーを呼び出している状態です。

●本機の主な機能をまとめると次のようになります。



プリセットモードについて

- 初期状態(工場出荷時)では、プリセットモードになっています。このモードでは、数字キーにメモリーさせた周波数を呼び出したり、周波数を変化させて受信したい信号を探すサーチ機能を使うことができます。また、セクター等を使って、呼び出した周波数を変更することができます。本機を拡張モード(P28)にすると、すべての機能が使えるようになり、より細かく設定することができます。

■プリセットモードでは、次のことができます。

- プリセットメモリーの呼び出し、書き込み
- サーチバンドメモリーの書き込み、呼び出し
- セクターを使った、周波数の変更
- セットモードの変更
- 電波型式の変更
- キーロック
- 表示部のランプ点灯



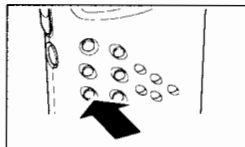
◆プリセットモードでは、表示されないセットモードがあります(P53)。拡張モードに変更すると、全てのセットモードが表示されます。

◆サーチを行うと、より早く聞きたい局を探し出せます。プリセットモードでは、サーチのみ行うことができます。

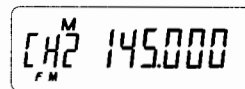
拡張モードに変更すると、すべてのサーチやスキャンを行うことができます(P40)。また、聞きたい局や飛ばしたい局の周波数をメモリーに書き込むことができます(P35, 44, 45)。

プリセットメモリーを呼び出すには

- プリセットモードのときは、数字キーはプリセットメモリーキーとして働きます。このキーにより、簡単にプリセットメモリーに書き込まれている周波数を呼び出せます。



- 1 受信したい周波数が書き込まれている数字キーを押す



- 2 周波数が表示されることを確かめる



◆初期状態(工場出荷時)では、数字キーの0から9に、次の周波数がメモリーに書き込まれています。

数字キー	周波数	電波型式	受信局
0	82.500 MHz	WFM	FMラジオ
1	128.800 MHz	AM	航空無線
2	145.000 MHz	FM	アマチュア無線
3	156.800 MHz	FM	船舶無線
4	221.750 MHz	WFM	テレビ(12CH)
5	433.000 MHz	FM	アマチュア無線
6	904.0125 MHz	FM	パーソナル無線
7	3.925 MHz	AM	ラジオ短波
8	6.055 MHz	AM	ラジオ短波
9	9.595 MHz	AM	ラジオ短波

VFO状態にするには

- VFO (Variable Frequency Oscillator) 状態とは、セクター(および数字キー(拡張モード))を使って周波数を変えることができる状態をいいます。

1 表示部を確認する



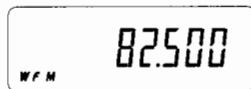
2 プリセットモードのときは、以下の手順でVFO状態に戻す

- プリセットメモリーのときは、**[CLMW/MC]** キーを押す(▶16)
- セットモードのときは、**[CLMW/MC]** キーを押す(▶53)
- 周波数が変化しているときは、**[CLMW/MC]** キーを押す(サーチ中です。▶20)

拡張モードのときに追加される機能は、以下の手順でVFO状態に戻す

- Mが表示されているときは、**[CLMW/MC]** キーを押す(メモリーモードです。▶35)
- Mが表示されているときは、**[CLMW/MC]** キーを2回押す(スキャン中です。▶47)

3 VFO状態に戻ったことを確かめる



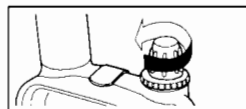
周波数を変更するには[1]

- プリセットモードでは、セクターを回すことによって、周波数を変更できます。

1 VFO状態にするか、プリセットメモリーを呼び出した状態にする



2 時計方向に回すと、周波数ステップ(▶24)ごとに周波数が上がる



3 反時計方向に回すと、周波数ステップごとに周波数が下がる



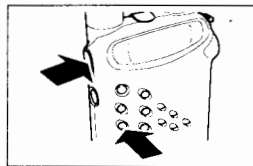
◆本機は、クイックエンコーダー方式を採用しています。セクターを速く回すと、周波数が大きく変化します。

◆**[FUNC]** キーを押しながらセクターを回すと、周波数が1 MHzステップで変化します。なお、このステップは、変更することができます。(▶24)

◆拡張モードでは、セクターの他に、数字キーを使って変更できるようになります。(周波数を変更するには[2] ▶28)

電波の型式を選択するには

- 受信する電波の型式に合わせて、AM、FMナロー(FM)そしてFMワイド(WFM)が選択できます。



- 1 **[F/M]** キーを押しながら、**[MODE]** キーを押す

- 2 このキーを押すたびに、表示が変わることを確かめる



WFM : FM放送、TV放送の音声のみを受信するときを選びます。

FM : アマチュア無線、マリンバンドなどを受信するときを選びます。

AM : AM放送やエアーバンドなどを受信するときを選びます。



◆電波の型式が合っていないと、受信しても音が出なかったり、歪んで聞こえます。

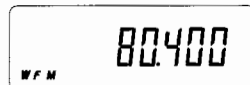
◆本機は初期状態(工場出荷時)では、オートステップ機能(D24)およびオートモード機能(D24)が働いています。この機能は、周波数に合わせて、周波数ステップと電波の型式を自動的に変える機能です。この機能は、それぞれ解除できます。

プリセットメモリーを変更するには

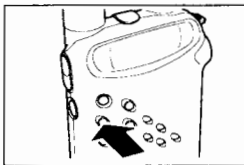
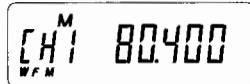
- プリセットメモリーの内容を変更します。

- 1 VFO状態にする

- 2 変更したい周波数、電波の型式にする



- 3 変更する数字キーを2秒以上押す (ビー音がし、メモリーアドレスが表示され、周波数がメモリーされます。)



◆本機のセレクターは、クイックエンコーダー方式を採用しています。セレクターを速く回すと、周波数が大きく変化します。

受信するための各機能について[1]

- プリセットモードでは、受信したい周波数を探すためにサーチ機能があります。
- サーチ機能とは、周波数を変化させて受信するものです。周波数の変化は周波数ステップに従います。

サーチ (P.20)

本機の受信できる全域内で、指定した2波の周波数間をサーチします。

- 信号を受けたとき、サーチは止まります。サーチの止まりかたには、3種類があります。

ポーズタイプ

信号を受けるとサーチは止まります。しかし、約5秒後には、信号を受けていてもサーチは再開します。拡張モード時のセットモードで5秒以外に変更できます (P.49)。

ビジータイプ

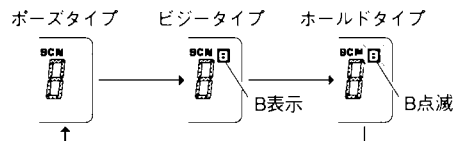
信号を受けている間はサーチは止まります。信号が無くなると約2秒後にサーチを再開します。

ホールドタイプ

信号を受けるとサーチを一時保留します。サーチを再開するときは、セレクトターを回します。

サーチの止まりかたを変更するには

F + **0** サーチ中に **FUNC** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す



サーチを行う前にはザーという音が出ない位置まで、SQLツマミを回します。



◆拡張モードにすると、サーチの他に、スキャンもできるようになります。また、サーチやスキャンの種類も、全部で6種類になり、より早く目的の信号を探することができます。

サーチするには

- サーチが始まる周波数と、終わる周波数を設定し、その間をサーチします。

■サーチする範囲を設定するには

- 1 VFO状態にする
- 2 サーチが始まる(終わる)周波数にする
- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[5Δ]** キーを押す
(表示部に Ain が表示されます。)
- 4 表示されている周波数で正しければ、**[FUNC]** キーを押しながら、**[5Δ]** キーを押す
修正する場合は、**[CLMW/MC]** キーを押し、手順2へ戻る
- 5 もう一方の周波数を入力する
- 6 **[FUNC]** キーを押しながら、**[VENT]** キーを押す
(表示部に bin が表示されます。)
- 7 表示されている周波数で正しければ、**[FUNC]** キーを押しながら、**[VENT]** キーを押す
修正する場合は、**[CLMW/MC]** キーを押し、手順5へ戻る

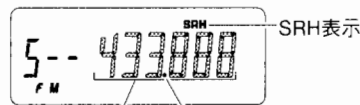


◆初期状態では、本機の受信できる全域(100kHz～1299.999MHz)が設定されています。

◆前回と同じ範囲をサーチする場合は、再度サーチする範囲を入力する必要はありません。右の欄の「■サーチを始めるには」を行ってください。

■サーチを始めるには

- 1 VFO状態にする
- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[3SRH-D]** キーを押す
(表示部にS--が表示され、サーチが始まります。)



サーチします。



- 3 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆サーチを行っているとき、セレクトターを1クリック回すと、サーチを保留します。このとき、SRHの表示は点減します。

◆サーチを保留しているときに、セレクトターで周波数を上げる操作を行うと、サーチは周波数が上がる方向で再開します。同様に、周波数を下げる操作を行うと、サーチは周波数が下がる方向で再開します。

◆サーチを行っているとき、**[FUNC]** キーを押しながらセレクトターを回すと、サーチを停止せずに、MHz台を変更できます。

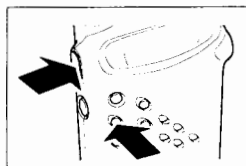
◆サーチ中に数字キーを2秒以上押すと、その番号のサーチバンドメモリーにサーチ範囲が書き込まれます(P.42)。プリセットモードのときに、この操作を行うとプリセットメモリーにサーチの状態がメモリーされ、次からその番号を押すとサーチが始まります。

もっと自由にあつかうために

表示部のランプを点灯させるには	22
照明の操作を切り替えるには	22
間違って操作するのを防ぐには(キーロック)	23
キー操作音を鳴らさないようにするには	23
周波数ステップを変えるには(オートステップ)	24
周波数に合わせて電波型式を変更するには(オートモード)	24
電池を長くもたせるには(バッテリーセーブ)	25
自動的に電源を切るには(オートパワーオフ)	25
セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)	26

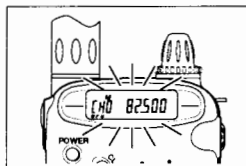
表示部のランプを点灯させるには

- 暗い場所などで使うときに、表示部のランプを点灯させることができます。この時、ランプはキー操作が終わった後、5秒後に消灯します。

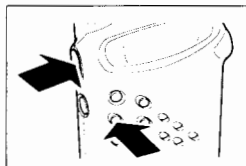


- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[LAMP]** キーを押す

(ランプが点灯します。)



- 2 ランプを点灯中に消すには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[LAMP]** キーを押す



◆右の欄のセットモードにより、ランプを点灯したままの状態にすることができます。

照明の操作を切り替えるには



- ランプは5秒間点灯します。しかし、ランプの操作をしたときに、ランプを点灯したままの状態にすることができます。



- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す

- 2 セレクターを回し、表示を nor LAMP にする



- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を nor から tGL にする

- 4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



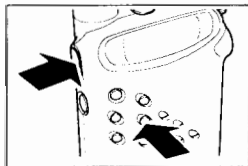
- 5 **[FUNC]** キーを押しながら **[LAMP]** キーを押し、ランプを点灯させる



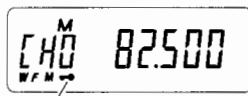
◆ランプを消すには、**[FUNC]** キーを押しながら **[LAMP]** キーを押してください。

間違って操作するのを防ぐには(キーロック)

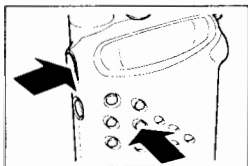
- キー操作をできないようにすることができます。これは、キーを間違って押し、動作が変わってしまうのを防ぐためです。この操作をキーロックと呼びます。また、キーロック中はセクターも働きません。



- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[6 KEY-L]** キーを押す
(キーマークが表示されます。)



キーマーク表示



- 2 この操作を解除するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[6 KEY-L]** キーを押す

キー操作音を鳴らさないようにするには

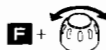
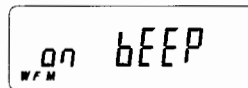
- キーを押したときや、電源を入れたときに出る音をビープ音と呼びます。この音を出なくすることができます。



- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す



- 2 セクターを回し、表示を on bEEP にする



- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示を on から OFF にする



- 4 もとの表示に戻るには、**[CL MW/MC]** キーを押す



◆キーロックが働いているときでも、**[FUNC]**、**[POWER]**、**[SQL OFF]**、**[FUNC]**+**[1 LAMP]** キーは使えます。

◆拡張モードのときには、セットモードの設定により、キーロック中でもセクターを使えるようにすることができます(P.29)。

周波数ステップを変えるには (オートステップ)

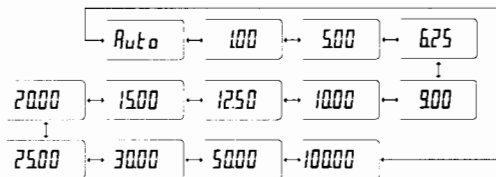
- セクター等で周波数を変更するとき、周波数は周波数ステップに従って変わっていきます。本機の初期状態(工場出荷時)では、周波数によって自動的に周波数ステップが変わります。これをオートステップと呼びます。オートステップから特定の周波数ステップ(1kHz~100kHz)に変更することができます。

F + 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す

2 セクターを回し、表示を StP Auto にする

StP Auto
WFM

F + 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示を Auto から変更する



4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆オートステップ時の周波数と周波数ステップの関係は、周波数・周波数ステップ・電波型式関係表(P54)をご覧ください。

周波数に合わせて電波型式を 変更するには(オートモード)

- 初期状態では、周波数に合わせて電波型式は自動的に変更されます。これをオートモードと呼びます。また、この機能を解除することもできます。

F + 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す

2 セクターを回し、表示を on AtmodE にする

on AtmodE
FM

F + 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示を on から OFF にする

OFF AtmodE
FM

4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

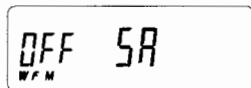


◆オートモード時の周波数と電波型式の関係は、周波数・周波数ステップ・電波型式関係表(P54)をご覧ください。

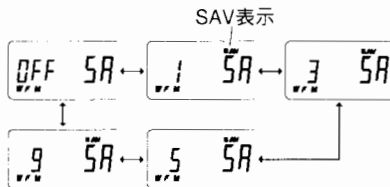
電池を長くもたせるには (バッテリーセーブ)

- 電池を長くもたせるために、本機が消費する電流を少なくすることができます。これをバッテリーセーブと呼びます。また、この電流を少なくしている時間を変更できます。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
F +  2 セレクターを回し、表示を OFF SA にする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を OFF から変更する



(このときの数字は、電流を少なくしている時間を秒で表わしています。)



- 4 もとの表示に戻るには、**[CL MW/MC]** キーを押す



◆この機能が設定されているときは、SAV が常に表示されます。

◆この機能が設定されているときは、受信した信号の始めの部分が切れることがあります。また、電流を少なくしている間は、スキャンは保留されます(D47)。

もっと自由にあつかうために

自動的に電源を切るには (オートパワーオフ)

- 約30分間、受信またはキー操作がないとき、自動的に電源を切ることができます。これをオートパワーオフと呼びます。電源が切れる1分前に警告音が鳴り、表示部のAPOが点滅します。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
F +  2 セレクターを回し、表示を OFF APO にする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を OFF から on にする



- 4 もとの表示に戻るには、**[CL MW/MC]** キーを押す



◆この機能が設定されているときは、APO が常に表示されます。

◆この機能により、電源が切れた後に再び電源を入れるときは**[POWER]** キーを1秒以上押します。

セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)



- **[4MY/▼]** キーによく使うセットモードを登録できます。これをマイキーと呼びます。初期状態では、周波数ステップが登録されています。

■ マイキーに登録された機能を切り替えるには

- F** +  **[FUNC]** キーを押しながら、**[4MY/▼]** キーを押す
(変更後の設定が約1秒間表示されます。)

■ セットモードを登録するには

- F** +  **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す



- 2** セレクターを回し、登録したいセットモードを表示する



- F** +  **[FUNC]** キーを押しながら、**[4MY/▼]** キーを押す
(ピー音がして、登録されました。)



- 4** 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆ 登録しても使えないセットモードがあります。登録して使えるセットモードについては、セットモード一覧(**P53**)をご参照ください。
- ◆ VFOリセットまたはオールリセットを行うと周波数ステップが登録された状態に戻ります。
- ◆ 拡張モードで追加されるセットモードを登録し、プリセットモードに戻るとマイキーの内容は「プリセットモードと拡張モードの切り替え」に変わります。

拡張モードを使うには

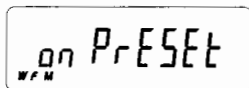
拡張モードにするには	28
周波数を変更するには[2]	28
キーロック中にセクターを使えるようにするには	29
入力信号の強さに応じてスケルチを開くには(RFスケルチ)	30
受信感度を低くするには(アッテネーター)	30
F Mナロー時のシグナルメーターの振れる割合を変えるには	31
MHz単位で周波数を変えるには(ファーストステップ)	31

拡張モードにするには

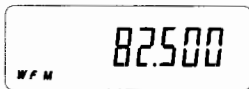


- 本機をプリセットモードから拡張モードに変更することができます。
拡張モードでは、プリセットモードで行えたサーチに加えて、スキャンが行えるようになります。
また、数字キーを使って周波数を変更できます。そして、すべてのセットモードの機能が使えるようになります。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す
-  2 セレクターを回し、表示を on PrESetにする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回す
(拡張モードになりました。)



- ◆プリセットモードに戻るには、手順2で表示を OFF PrESet にした後で、手順3を行ってください。

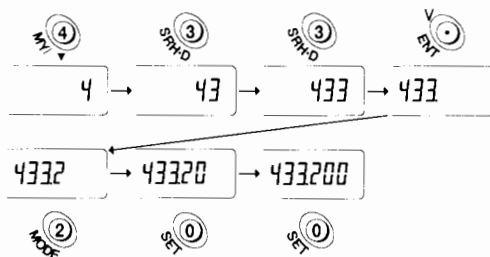
周波数を変更するには[2]

- 拡張モードで周波数を変更するには、セクター、または数字キーを使います。セクターを使う方法はプリセットモードのときと同じです。

周波数を変更する前に、本機をVFO状態にしてください(P.17)。

- 数字キーを使って周波数を変更する
1kHzの桁まで入力し、周波数を決める

- 1 例 433.2MHzの入力

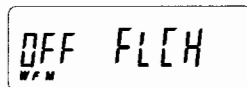


キーロック中にセクターを 使えるようにするには

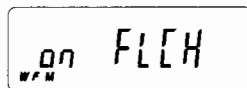
- 初期状態では、キーロック中はセクターの操作ができません。しかし、この機能を使うと操作できるようになります。

F + **SET** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す

2 セクターを回し、表示をOFF FLCHにする



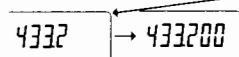
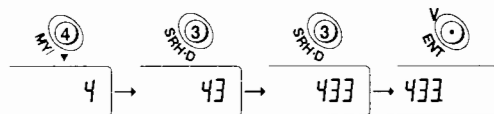
F + **000** 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFからonにする



4 もとの表示に戻るには、**[CL MW/MC]** キーを押す

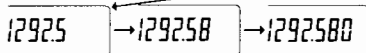
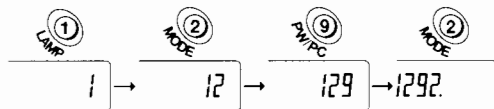


- 2 100kHz以下の桁を入力中に、周波数を決める
例 433.2MHzの入力



◆1MHzの桁と1kHzの桁の間で **[VENT]** キーを押すと、周波数が決まります。

- 3 1000MHz以上の周波数を入力する
例 1292.58MHzの入力



◆1MHzの桁と100kHzの桁の間で **[VENT]** キーは押しません。



◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

入力信号の強さに応じてスケルチ を開くには(RFスケルチ)

- 入力信号(RF)の強さ、つまりシグナルメーターの振れる割合に合わせて、スケルチを開くことができます。これをRFスケルチと呼びます。このレベルは切り替えることができます。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す
2 セクターを回し、表示をOFF rFSqLにする

OFF rFSqL
FM

- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFから変更する

OFF → 2 → 3 → 4 → 5
↓
9 → 8 → 7 → 6

-  4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

- ◆シグナルメーターの振れる割合と設定した数字の関係は以下になります。

OFF	設定なし	6	
2		7	
3		8	
4		9	
5			

- ◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

受信感度を低くするには (アッテネーター)

- 受信感度を低くすることができます。強い信号を受信し、音が歪んで聞こえることがあります。この機能を使うと音を歪みにくくすることができます。これをアッテネーターと呼びます。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す
2 セクターを回し、表示をOFF Attにする

OFF Att
FM

- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFからonにする

ATT表示
on Att
FM

-  4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

- ◆この機能がonのときは、ATTが常に表示されます。
◆この機能をonにすると、受信感度が約20dB低くなります。(100MHz時)

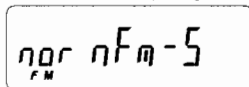
受信感度高い(良い) ⇔ 受信感度低い(悪い)
(電波が弱い局でも聞こえる) (電波が強い局しか聞こえない)

- ◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

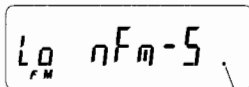
FMナロー時のシグナルメーターの 振れる割合を変えるには

- この機能を使うと、電波型式がFMナローのとき、シグナルメーターの振れる割合いを少なくすることができます。この機能を、シグナルメーターローセンスと呼びます。

- F** +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示を **norFm-S** にする



- F** +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示を **nor** から **Lo** にする



ドット表示

- 4** もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆この機能が **Lo** のときは、・(ドット)が常に表示されます。

- ◆この機能は、電波の型式が **WFM** または **AM** のときは働きません。

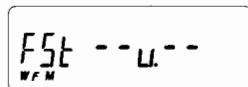
- ◆フォックスハンティング等で電波の発信源に近付いた時に、この機能を **Lo** に設定すると、発信源の発見に効果的です。また、アッテネーター機能(**P30**)と組み合わせるとより効果的です。

- ◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

MHz単位で周波数を変えるには (ファーストステップ)

- [FUNC]** キーを押しながら、セレクターで周波数を変更すると、周波数はMHz単位で変わります。これをファーストステップと呼びます。この変更される桁を100MHzから0.1MHzの間で変えることができます。

- F** +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示を **FSt--u--** にする



- F** +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、変更したい周波数の桁に **u** を合わせる



- 4** もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

拡張モードを使うには／(拡張モード)



メモリー機能を使うには

メモリー機能について	34
メモリーするには	35
メモリーを呼び出すには[1]	35
メモリーを呼び出すには[2]	36
メモリーを消すには	36
メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)	37
メモリーをブロックごとに消すには	37
メモリーの内容を交換するには(メモリースワップ)	38
メモリー周波数のままVFO状態に戻るには	38



メモリー機能について

- 拡張モードでは、よく聞く周波数をメモリーに書き込むことができます。メモリーに書き込むことができる周波数は800波です。
- メモリーに書き込みを行っているときや、メモリーを呼び出しているときを、「メモリーモード」と呼びます。このとき、表示部には「M」が表示されます。
- メモリーを書き込んだ番号を「メモリーアドレス」と呼びます。
- メモリーアドレスは、下の表のように、000～979まであります。
- メモリーアドレスの100の桁を、「ブロック番号」と呼びます。
- ブロック番号は0～9まであります。また、各ブロックは、00～79までの80個のアドレスにわかれています。

ブロック番号	メモリーアドレス
0	M 000 ～ M 079
1	M 100 ～ M 179
2	M 200 ～ M 279
3	M 300 ～ M 379
4	M 400 ～ M 479
5	M 500 ～ M 579
6	M 600 ～ M 679
7	M 700 ～ M 779
8	M 800 ～ M 879
9	M 900 ～ M 979

- メモリーに書き込んだ内容を間違えて、変えたり、消したりしないためのメモリープロテクト(P37)があります。

- メモリーの仲間には次のようなものがあります。

サーチバンドメモリー (P42～44)

このメモリーは2波1組で、その2波の間の周波数を探すとき(サーチP41)に使います。20組(40波)まで書き込めます。本機は、初期状態で10組(20波)が書き込まれています。これらの周波数は自由に書き替えることができます(P44)。このメモリーは、10組(20波)を1つのバンクと呼び、バンクの切り替えはセットモードにて行います(P43)。

サーチパスメモリー (P44～46)

受信したくない周波数があるときに書き込みます。このメモリーに書き込まれた周波数は、サーチをしているときに、受信しません。90波まで書き込めます。

プライオリティメモリー (P50)

特によく聞く周波数を1波だけこのメモリーに登録できます。プライオリティメモリーに登録したメモリーアドレスと、別の周波数を交互に受信することを、デュアルワッチ(P50)と呼びます。デュアルワッチを行うと、5秒に1回、プライオリティメモリーに登録されているメモリーアドレスの周波数を受信します。また、この機能はサーチやスキャン中にも行うことができます。



- ◆ **[FUNC]** キーを押しながらセクターを回すと、メモリーアドレスが大きく変化します。

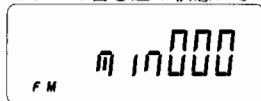
メモリーするには

●よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

- 1 VFO状態にする
- 2 メモリーに書き込みたい周波数にする



- F** + 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す
(メモリーの書き込み状態になります。)



- F** + 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す
(「ピー」音がし、メモリーに書き込まれ、VFO状態に戻ります。)



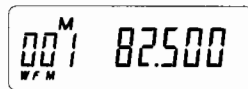
- ◆手順3で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていない一番小さい番号が表示されます。
- ◆手順3では、既に周波数が書き込まれているメモリーアドレスは表示されません。
- ◆手順3で、セクターを使って、書き込まれていないメモリーアドレスを表示させることができます。
- ◆手順4で、数字キーを使って直接メモリーアドレスを入力し、メモリーすることができます。この時、既に書き込まれているメモリーアドレスは、新しい周波数に置き換わります。
- ◆手順3で、メモリーアドレスに空がないとき、表示は min --- が表示されます。

メモリーを呼び出すには[1]

●書き込まれているメモリーを呼び出します。セクターを使いメモリーアドレスを順番に変更することができます。



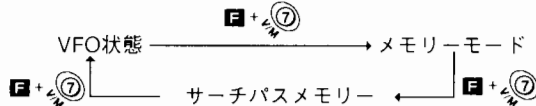
- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[ZVM]** キーを押し、メモリーモードにする



- 2 時計方向に回すと、メモリーアドレスが上がる
反時計方向に回すと、メモリーアドレスが下がる



- ◆手順1で、書き込まれている周波数がない場合は、「ボツ」音がしてメモリーを呼び出すことはできません。
- ◆手順2で表示されるメモリーは、書き込まれているメモリーアドレスのみです。
- ◆サーチパスメモリーが登録されているときは、メモリーモードで手順1を行うとサーチパスメモリーが呼び出されます。

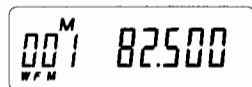


メモリーを呼び出すには[2]

- メモリーアドレスを数字キーを使い、直接呼び出すことができます。



- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[7 V/M]** キーを押し、メモリーモードにする



- 2 数字キーを使い、呼び出すメモリーアドレスを入力する
(3桁目が入力されると、メモリーアドレスが呼び出されます。)



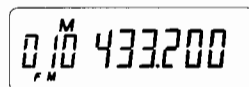
- ◆手順2で、数字キーを使って入力できるメモリーアドレスは、書き込まれているアドレスのみです。書き込まれていないアドレスを入力した場合は、「ブザー」音がして入力を受け付けません。
- ◆サーチパスメモリーが登録されているときは、メモリーモードで手順1を行うとサーチパスメモリーが呼び出されます。

メモリーを消すには

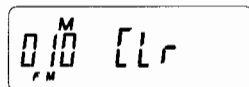
- 書き込まれている周波数をメモリーアドレスごとに消すことができます。



- 1 VFO状態にする
- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[7 V/M]** キーを押す
- 3 消したいメモリーアドレスを表示する



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す
(表示部にCLrが表示されます。)



- 5 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す
(「ピー」音がし、メモリーモードに戻ります。)



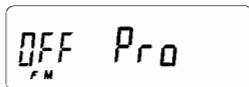
- ◆消したメモリーを復活させることはできません。メモリーを消さないときは、手順5を行う前に、**[CLMW/MC]** キーを押すか、**[FUNC]** キーを押しながら、**[7 V/M]** キーを押してください。
- ◆最後のメモリーアドレスを消したときは、手順5の後に「ポッ」音がし、VFOモードになります。
- ◆メモリープロテクト(**[P37]**)がonのときは、手順4で「ブザー」音がします。

メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)

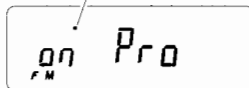
- メモリーを間違えて変更したり、消すのを防ぐことができます。

F +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す

 2 セクターを回し、表示をOFF Proにする



F +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFからonにする
メモリープロテクト表示



 4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



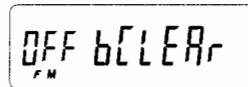
- ◆この機能が働いていても、オールリセットを行うと、メモリーは消去されます。
- ◆この機能は、サーチパスメモリーには使えません。
- ◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

メモリーをブロックごとに消すには

- メモリーをブロックごとに消すことができます。ブロックとはメモリーアドレスの100の桁を1つのブロック(**P34**)とします。

F +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す

 2 セクターを回し、表示をOFF bCLEARにする



- 3 消したいブロック番号を数字キーで入力する
(「ピー」音がし、ブロック内のメモリーが消去され、VFO状態に戻ります。)



- ◆メモリーを消さないときは、手順3の前で、**[CLMW/MC]** キーを押してセットモードを解除してください。
- ◆メモリープロテクトが働いているときは、この機能を使ってブロックを消すことはできません。メモリープロテクトを解除してください。

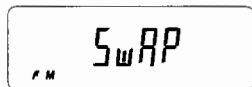
メモリー機能を使うには／(拡張モード)

メモリーの内容を交換するには (メモリースワップ)

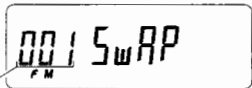
- 2つのメモリーアドレスの間で、メモリーの内容を交換することができます。

F +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す

 2 セクターを回し、表示をSwAPにする



- 3 1つ目のメモリーアドレスを数字キーで入力する (1つ目のメモリーアドレスはSwAPの左側に表示されます。)



メモリーアドレス

- 4 2つ目のメモリーアドレスを数字キーで入力する (2つ目のメモリーアドレスはSwAPの右側に表示されます。)
- 5 2つ目のメモリーアドレスの3桁目を入力する (「ピー」音がし、VFO状態に戻ります。)



◆周波数が書き込まれているメモリーアドレスと空のメモリーアドレスを交換することもできます。

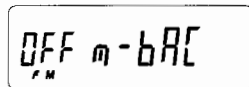
◆この機能は、サーチパスメモリーには使えません。

メモリー周波数のままVFO状態に戻るには

- メモリーモードを終わらせると、メモリーモード前のVFO状態に戻ります。しかし、この機能を使うとメモリーモードのときの周波数のままで、VFO状態に戻ることができます。

準備

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す
- 2 セクターを回し、表示をOFF m-bACにする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFからonにする
- 4 もとの表示に戻るには、**[CL MW/MC]** キーを押す



メモリー周波数のままVFO状態に戻るには

- 1 VFO状態にしたい、メモリーアドレスにする



- 2 **[CL MW/MC]** キーを押す (「ピー」音がして、VFO状態に戻ります。)



◆この機能はサーチパスメモリーには使えません。

すばやく受信するために

受信するための各機能について[2]	40
サーチするには	41
ワンタッチサーチするには	42
サーチバンドメモリーの内容を確認するには	43
サーチバンドメモリーのバンクを切り替えるには	43
サーチバンドメモリーを書き替えるには	44
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[1](サーチパスメモリー)	44
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[2](サーチパスメモリー)	45
サーチパスメモリーの内容を確認するには	46
サーチパスメモリーを消すには	46
オールメモリースキャンするには	47
指定した周波数をスキャンするには(メモリースキャンメモリー)	48
メモリーをブロックごとにスキャンするには(ブロックメモリースキャン)	49
ポーズタイプの停止時間を変えるには	49
デュアルワッチを行うには	50

受信するための各機能について[2]

- 拡張モードでは、受信したい周波数を探すためにサーチ機能とスキャン機能があります。また、特定の周波数とメモリーされた周波数を交互に受信するデュアルワッチ機能 (P.50) があります。

- サーチ機能とは、周波数を変化させて受信するものです。この機能は、2種類があります。周波数の変化は周波数ステップに従います。

サーチ (P.41)

本機の受信できる全域内で、指定した2波の周波数間をサーチします。

ワンタッチサーチ (P.42)

サーチバンドメモリーを使って、サーチバンドメモリーに書き込まれた2波の周波数間をサーチします。

- スキャン機能とは、メモリーに書き込まれた周波数を順次受信するものです。この機能は、3種類があります。

オールメモリスキャン (P.47)

メモリーされているすべての周波数をスキャンします。

メモリスキャンメモリー (P.48)

指定したメモリーをスキャンします。

ブロックメモリスキャン (P.49)

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリーアドレスの100の桁を1つのブロックとします。

- 信号を受けたときスキャン／サーチは止まります。スキャン／サーチの止まりかたには、3種類があります。この止まりかたは、スキャンとサーチで別々に設定できます。

ポーズタイプ

信号を受けるとスキャン／サーチは止まります。しかし、約5秒後には、信号を受けていても、スキャン／サーチは、再開します。セットモードで5秒以外に変更できます (P.49)。

ビジータイプ

信号を受けている間はスキャン／サーチは止まります。信号が無くなると約2秒後にスキャン／サーチを再開します。

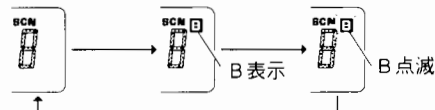
ホールドタイプ

信号を受けるとスキャン／サーチを一時保留します。スキャン／サーチを再開するときは、セクターを回します。

タイプを変更するには

F+  サーチ／スキャン中に **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す

ポーズタイプ ビジータイプ ホールドタイプ



サーチ／スキャンを行う前にはザーという音が出ない位置まで、SQLツマミを回します。

サーチするには

- サーチが始まる周波数と、終わる周波数を設定し、その間をスキャンします。

■サーチする範囲を設定するには

- 1 VFO状態にする
- 2 サーチが始まる(終わる)周波数にする
- 3 **[FUNC]**キーを押しながら、**[S/A]**キーを押す
(表示部に Ain が表示されます。)
- 4 表示されている周波数で正しければ、**[FUNC]**キーを押しながら、**[S/A]**キーを押す
修正する場合は、**[CLMW/MC]**キーを押し、手順2へ戻る
- 5 もう一方の周波数を入力する
- 6 **[FUNC]**キーを押しながら、**[VENT]**キーを押す
(表示部に bin が表示されます。)
- 7 表示されている周波数で正しければ、**[FUNC]**キーを押しながら、**[VENT]**キーを押す
修正する場合は、**[CLMW/MC]**キーを押し、手順5へ戻る



◆初期状態では、本機の受信できる全域(100kHz～1299.999MHz)が設定されています。

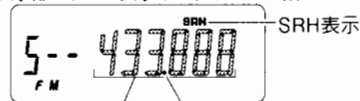
◆前回と同じ範囲をサーチする場合は、再度サーチする範囲を入力する必要はありません。右の欄の「■サーチを始めるには」を行ってください。

■サーチを始めるには

1 VFO状態にする



- 2 **[FUNC]**キーを押しながら、**[SRH/D]**キーを押す
(表示部にS--が表示され、サーチが始まります。)



サーチします。点滅



- 3 終了するには、**[CLMW/MC]**キーを押す



◆サーチを行っているとき、セレクトターを1クリック回すと、サーチを保留します。このとき、SRHの表示は点滅します。

◆サーチを保留しているときに、セレクトターで周波数を上げる操作を行うと、サーチは周波数上がる方向で再開します。同様に、周波数を下げる操作を行うと、サーチは周波数下がる方向で再開します。

◆サーチを行っているとき、**[FUNC]**キーを押しながらセレクトターを回すと、サーチを停止せずに、サーチの範囲内でMHz台を変更できます。

◆サーチ中に数字キーを2秒以上押すと、その番号のサーチバンドメモリーにサーチする範囲が書き込まれます。(P.44)

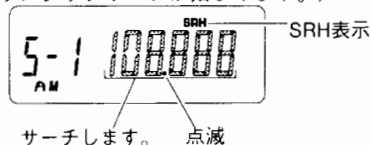
ワンタッチサーチするには

- サーチバンドメモリーに書き込んだ2波1組の周波数を使い、その間をサーチします。

1 VFO状態にする

- F** + **③** **SRH-D** 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[3 SRH-D]** キーを押す
(サーチが始まります。)

- ①** **SET** ~ **⑨** **PA/PC** 3 サーチバンドメモリーの番号を数字キーで入力する
(ワンタッチサーチが始まります。)



- ④** 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆手順2で、初期状態では、本機の受信できる全域(100kHz~1299.999MHz)が設定されています。
◆ワンタッチサーチを行っているときの保留の方法と向きの変え方はサーチと同じです。
◆ワンタッチサーチを行っているときに、他の数字キーを押すと、サーチ範囲をワンタッチで変えることができます。
◆ワンタッチサーチ中に**[EVENT]** キーを押すと、「サーチするには(P41)」で設定した周波数範囲になります。また、そのときの表示はS--になります。
◆サーチバンドメモリーに書き込まれている周波数を、セットモードで確認することができます。(P43)
◆初期状態では、サーチバンドメモリー(バンクA)の0~9には、次の周波数が書き込まれています。

数字キー	周波数範囲(MHz)	受信局
0	76.0000~107.7500	FMラジオ、TV(1~3)
1	108.0000~142.0000	航空無線
2	144.0000~146.0000	アマチュア無線
3	146.0100~154.6500	公共事業、業務無線など
4	156.0000~162.0500	船舶無線など
5	175.7500~221.7500	TV(4~12)など
6	430.0000~440.0000	アマチュア無線
7	450.0125~451.5000	タクシー無線
8	850.0125~859.9875	MCA無線
9	903.0375~904.9875	パーソナル無線

バンクbの初期値は、すべて0.100MHz~1299.999MHzです。バンクAとbの切り替えは、セットモードにより行います(P43)。

サーチバンドメモリーの内容を確認するには

- サーチバンドメモリーに書き込まれた周波数を確認することができます。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す

 **2** セレクターを回し、表示を 0-A 76.000 にする

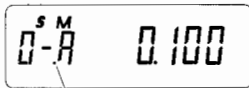


F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し確認したいサーチバンドメモリーにする
(サーチバンドメモリーは、0-A, 0-b, 1-A, ... , 9-A, 9-b, 0-A, ... と変化します。)



 **4** 終了するには、**[CL MW/MC]** キーを押す

 ◆サーチバンドメモリーがバンク b に設定されているときは、アドレスに・(ドット)が表示されます。

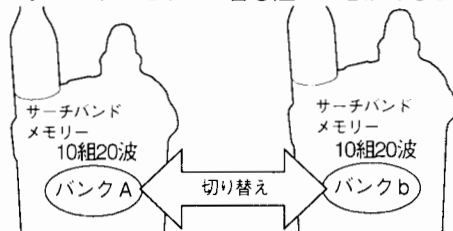


ドット表示

(拡張モード) / すばやく受信するために

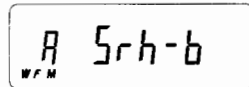
サーチバンドメモリーのバンクを切り替えるには

- サーチバンドメモリーの20波10組を1つのバンクと呼びます。本機には、このバンクが2つあります。バンクを切り替えて使うことで最大20組のサーチ範囲をサーチバンドメモリーに書き込むことができます。

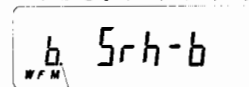


F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す

 **2** セレクターを回し、表示を A Srh-b にする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示を A から b にする
(バンク b を示す・(ドット)が表示されます。)



ドット表示



4 もとの表示に戻るには、**[CL MW/MC]** キーを押す

サーチバンドメモリーを書き替えるには

- サーチバンドメモリーに書き込まれた周波数を変更することができます。

1 「サーチするには(P.41)」の手順に従い、サーチしたい周波数範囲を設定し、サーチを行う

 2 書き換えたいサーチバンドメモリー番号の数字キーを、2秒以上押す
(ピー音がし、サーチバンドメモリーが書き替えられました。)

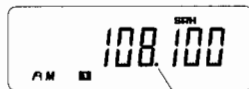
 3 終了するには、[CLMW/MC] キーを押す

サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[1](サーチパスメモリー)

- サーチを行っているときに、必要が無いのに止まる周波数があります。このような周波数をサーチパスメモリーに書き込むと、その周波数をサーチしくなくなります。サーチパスメモリーには、90波の周波数を書き込めます。このメモリーのアドレスはP00～P89です。以下の手順でサーチ中にサーチパスメモリーに書き込めます。

■サーチを行っているとき書き込むには

- 1 飛ばしたい周波数で、サーチが止まったことを確かめる



点滅

-  2 [FUNC] キーを押しながら、[9PW/PC] キーを押す
(「ピー」音がして、サーチパスメモリーに書き込まれます。)



◆ポーズタイプのサーチでは、受信後約5秒でサーチが再開します。したがって、ポーズタイプを設定しているときは手順2を素早く行ってください。

◆このメモリーに空がないときは、サーチ中に書き込むことはできません。不要なメモリーアドレスを消してください(P.46)。または、VFO状態にして、書き替えてください(P.45)。

◆ここで設定したサーチパスメモリーは、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。



◆サーチバンドメモリーに書き込まれている周波数を、セットモードで確認することができます。(P.43)

サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[2](サーチパスメモリー)

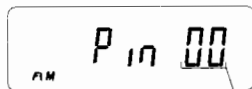
- VFO状態のときに、サーチパスメモリーに書き込むことができます。

■VFO状態のとき書き込むには

- 1 VFO状態にする
- 2 飛ばしたい周波数にする



- 3 [FUNC] キーを押しながら、[9 PW/PC] キーを押す



メモリーアドレス



- 4 [FUNC] キーを押しながら、[9 PW/PC] キーを押す
(「ピー」音がして、サーチパスメモリーに書き込まれます。)



◆手順3の後で、数字キーやセクター等を使って表示されている以外のメモリーアドレスにすることができます。ただし、数字キーを使ってメモリーアドレスを入力すると、入力した時点で「ピー」音がして、サーチパスメモリーにそのメモリーアドレスが書き込まれます。

◆手順3で、サーチパスメモリーに空がないと、表示はPin ーになります。このときは、消してもよいメモリーアドレスの番号を数字キーを使って入力してください。新しい周波数が入力されます。

◆メモリーモードのとき、[FUNC] キーを押しながら、[7 VM] キーを押すと、サーチパスメモリーが表示されます。数字キーやセクター等を使ってメモリーアドレスを変更してください。(P.46)

◆ここで設定したサーチパスメモリーは、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

すばやく受信するために／(拡張モード)

サーチパスメモリーの内容を確認するには

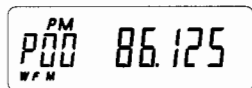
- サーチパスメモリーに書き込まれた周波数を確認することができます。



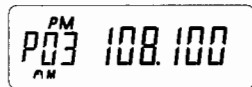
- 1 [FUNC] キーを押しながら [7 V/M] キーを押し、メモリーモードにする



- 2 [FUNC] キーを押しながら、[7 V/M] キーを押す



- 3 セレクターを回し確認したいサーチパスメモリーにする



- 4 終了するには、[CLMW/MC] キーを押す



- ◆メモリーが1つも登録されていないときは、手順1でサーチパスメモリーが呼び出されます。従って、手順2を行う必要はありません。
- ◆手順3で、[FUNC] キーを押しながら、セレクターを回すとアドレスの10の位が変化します。

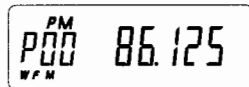
サーチパスメモリーを消すには



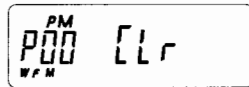
- 1 [FUNC] キーを押しながら [7 V/M] キーを押し、メモリーモードにする



- 2 [FUNC] キーを押しながら、[7 V/M] キーを押す
3 セレクターまたは数字キーで、消したいメモリーアドレスを表示する



- 4 [FUNC] キーを押しながら、[9 PW/PC] キーを押す (CLrが表示されます。)



- 5 [FUNC] キーを押しながら、[9 PW/PC] キーを押す (「ピー」音がして、サーチパスメモリーが消されます。)



- 6 終了するには、[CLMW/MC] キーを押す

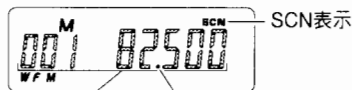


- ◆メモリーが1つも登録されていないときは、手順1でサーチパスメモリーが呼び出されます。従って、手順2を行う必要はありません。
- ◆サーチパスメモリーを消さないときは、手順5の前で、[CLMW/MC] キーを押してください。
- ◆最後のサーチパスメモリーを消すと、手順5では「ポッ」音がし、VFO状態に戻ります。

オールメモリースキャンするには

- メモリーされているすべての周波数をスキャンします。

- F** + **8** **SCAN-D** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[SCAN-D]** キーを押す
(スキャンが始まります。)



スキャンします。 点減



- 2** 終了するには、**[CL MW/MC]** キーを押す



- ◆手順1で、メモリーが1つも登録されていないときは、「ブザー」音がし、スキャンは行われません。
- ◆スキャンを行っているとき、セレクトターを1クリック回すと、スキャンを保留します。この時、SCNの表示が点滅します。
- ◆バッテリーセーブ(D25)を設定しているときに、スキャンを行うと、電流を少なくしている間は、スキャンは保留されます。
- ◆スキャンを保留しているときに、セレクトターで周波数を上げる操作を行うと、スキャンは周波数上がる方向で再開します。同様に、周波数を下げる操作を行うと、スキャンは周波数下がる方向で再開します。
- ◆オールメモリースキャンは、サーチ、メモリーモード、セットモード、サーチパスメモリー表示時そしてVFO状態の時から始められます。



指定した周波数をスキャンするには(メモリスキャンメモリー)



●スキャンしたいメモリーを指定してスキャンします。

■スキャン前の準備(メモリーの指定)をする

- 1 メモリーモードにする
- 2 指定をしたいメモリアドレスにする

001^M 82500
WFM



- 3 [FUNC] キーを押しながら、[0 SET] キーを押す
- 4 セレクターを回し、表示をOFF mSmにする

OFF^M mSm
WFM



- 5 [FUNC] キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする(Mの上に▼が表示されます。)
- 6 [CL MW/MC] キーを押す(指定したメモリアドレスのMの上に▼が表示されます。)

001^M 82500
WFM

- 7 他のメモリーを指定するときは、手順2から始める
- 8 終了するには、[CL MW/MC] キーを押す



■スキャンするには



- 1 VFO状態にする
- 2 [FUNC] キーを押しながら、[0 SET] キーを押す
- 3 セレクターを回し、表示をOFF mSmにする

OFF^M mSm
WFM



- 4 [FUNC] キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする(▼が表示されます。)



- 5 [FUNC] キーを押しながら、[8 SCAN-D] キーを押す(指定したメモリーのスキャンが始まります。)

001^M 82500^{SCN}
WFM

SCN表示

スキャンします。点滅



- 6 終了するには、[CL MW/MC] キーを押す



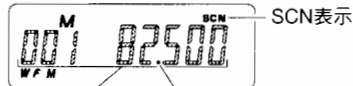
- ◆メモリスキャンメモリーを解除するには、手順4で表示をonからOFFにしてください。
- ◆メモリスキャンまたはメモリスキャンメモリー中に、[FUNC] キーを押しながら、[4 MY/▼] キーを押すと、メモリスキャンとメモリスキャンメモリーが切り替わります。
- ◆メモリスキャンメモリーが指定されているメモリーが無いときは、手順5で「ブザー」音がして、スキャンは始まりません。

メモリーをブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリスキャン)

- メモリスキャンをブロック内で行います。ブロックとは、メモリーアドレスの100の桁を1つのブロックとします。(P34)

F + **8** **SCAN/D** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[8 SCAN/D]** キーを押す
(オールメモリスキャンが始まります。)

0 **SET** ~ **9** **WPC** **2** スキャンを行うブロック番号を数字キーで入力する



スキャンします。点滅

0 **SET** ~ **9** **WPC** **3** 他のブロックをスキャンするときには、スキャンを行うブロック番号を数字キーで入力する

0 **W/MC** **4** 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆メモリスキャンメモリーを行っているときに、ブロック番号を入力すると、入力されたブロック内でメモリスキャンメモリーを行います。
- ◆入力したブロック番号に、メモリーが1つもないときは「ブザー」音がし、その番号を受け付けません。そして、オールメモリスキャンに戻ります。
- ◆ブロックメモリスキャンからオールメモリスキャンに戻るには、**[VENT]** キーを押します。

ポーズタイプの停止時間を変えるには

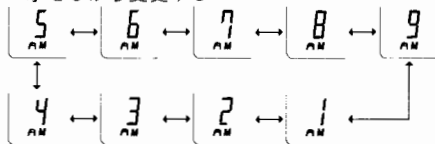


- 信号を受けたときポーズタイプでは、スキャン/サーチは、約5秒間保留されます。この時間を変更することができます。

F + **0** **SET** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示を5 dLAYにする



F + **0** **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示を5から変更する



(数字は、サーチ/スキャンを停止している時間を秒で表わしています。)



4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆ここで設定した機能は、運用モードをプリセットモードに変更しても有効です。

デュアルワッチを行うには



- セットモードのプライオリティーメモリー(Pri-no)に登録したメモリアドレスと、別の周波数を交互に受信することを、デュアルワッチといいます。初期状態では、Pri-no にメモリアドレスの 000 が登録されています。

■プライオリティーメモリーにメモリアドレスを指定するには

- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
- 2 セレクターを回し、表示を000 Pri-no にする



000 Pri-no

- 3 プライオリティーメモリーに指定したいメモリアドレスを、数字キーで入力する



- 4 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆手順3で指定するメモリアドレスは、周波数が書き込まれていないアドレスも指定することができます。ただし、デュアルワッチを行うことはできません。

■サーチ・スキャン中にデュアルワッチを始めるには

- 1 サーチ(P41)またはスキャン(P47)を始める
- 2 サーチ中は、**[FUNC]** キーを押しながら、**[3SRH-D]** キーを押す
スキャン中は、**[FUNC]** キーを押しながら、**[8SCAN-D]** キーを押す



(約5秒に一度、Pri-noで指定したメモリアドレスを受信します。)

- 3 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



■デュアルワッチを始めるには(スキャン・サーチ以外)

- 1 デュアルワッチを行いたい、状態(周波数)にする

VFO状態(P17)

メモリーモード(P34)

サーチバスメモリー(P44)



- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
- 3 セレクターを回し、表示をOFF duALにする



OFF duAL



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回す
(約5秒に一度、Pri-noで指定したメモリアドレスを受信します。)



433200

Pri-no 439520

- 5 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆セットモードのPri-noで指定したメモリアドレスに、周波数が書き込まれていないときは、手順4で「ブザー」音がし、表示をOFFから変えることはできません。

◆プライオリティーメモリーで受信している間は、デュアルワッチは保留されます。また、プライオリティーメモリーでない状態で受信すると、約5秒に1度プライオリティーメモリーを受信しますので、音声が届切れることがあります。

ご参考に

故障とお考えになる前に	52
セットモード一覧	53
周波数・周波数ステップ・電波型式関係表	54
アフターサービスについて	55
オプション(別売り品)の紹介	55
定 格	56
さくいん	57

故障とお考えになる前に

●故障かな？とお考えになる前に、該当する項目があるか確認してください。

□電源が入らない

- 電池が消耗している (P5)
- 電池の極性が間違っている (P5)

□電源が切れない

- 電池が消耗している (P5)

□電源のオン・オフを繰り返す

- 電池が消耗している (P6)

□表示部に「bAtt」が表示されている

- 電池が消耗している (P6)

□周波数が変わらない

- キーロックになっている (●が表示されている) (P23)

□受信しない/強い信号しか受信しない

- アンテナが外れている、緩んでいる (P5)
- 受信しようとしている局から離れすぎている
- スケルチツマミが+ (プラス) 方向に回し切っている (P8)
- RFスケルチの設定が大きな値になっている (P30)
- アッテネータが設定されている (P30)

□受信音がしない

- 音量ツマミが反時計方向に回し切っている (P8)
- RFスケルチが設定されている (P30)
- 受信周波数が合っていない (P17)
- 電波の型式が合っていない (P18)

□受信音がひずむ

- 受信周波数が合っていない (P17)
- 電波の型式が合っていない (P18)

□ザーという音が出る

- スケルチツマミがー (マイナス) 方向に回し切っている (スケルチオフになっている) (P8)

□メモリーに書き込めない

- メモリアドレスに空がない (P35)
- メモリープロテクトが設定されている (P37)

□サーチしない

- スケルチオフになっている (P8)
- サーチの範囲を指定する周波数Aおよび周波数bが同じ周波数で指定されている (P41)
- サーチの範囲がすべてパスメモリーに登録されている (P46)

□メモリースキャンしない

- メモリーが全て空メモリーになっている。または、ひとつしかメモリーされていない (P35)
- メモリースキャンメモリーのとき、メモリースキャンメモリーの登録しているメモリーがない。または、ひとつしか登録されていない (P48)
- スケルチオフになっている (P8)

□メモリースキャンのスピードが遅い

- バッテリーセーブが設定されている (P25)

□キーで周波数の入力ができない

- プリセットモードになっている (P28)
- 受信禁止範囲を入力した (Pii)

セットモード一覧

SET MODE			
呼び出し  + 		セットモードの選択 	機能の選択  + 
★:マイキー登録可能 E:拡張モード時に追加される機能(拡張モードでは、すべてのセットモードが使えます。)			
初期表示	機 能	OFF Pro	★ E メモリープロテクトのON/OFF選択 (P37)
StP Auto	★ 周波数ステップの選択 (P24)	OFF rFS9L	★ E RFスケルチの選択 (P30)
on Atmode	★ 受信電波により電波型式を自動変更 (オートモード) (P24)	OFF Att	★ E 受信感度を低くする機能(アッテネーター) のON/OFF選択 (P30)
nor Lamp	★ ランプ点灯の操作切り替え (P22)	nor nFm-5	★ E シグナルメーターローセンスの選択 (P31)
on bEEP	★ キー操作音(ピープ音)のON/OFF (P23)	OFF mSm	★ E メモリースキャンメモリーの設定 (P48)
OFF SR	★ バッテリーセーブの時間選択 (P25)	OFF duRL	★ E デュアルワッチのON/OFF選択 (P50)
OFF APD	★ オートパワーオフのON/OFF選択 (P25)	FSt --u--	★ E ファーストステップの桁数選択 (P31)
OFF rES	★ メモリー以外の内容を最初に戻す機能の許可 (VFOリセット) (P9)	SwAP	E メモリーの入れ替え(メモリスワップ) (P38)
on PreSet	★ プリセットモード/拡張モードの切り替え (P28)	OFF m-bAR	★ E メモリー周波数でVFO状態に戻る 機能のON/OFF選択 (P38)
OFF FLCH	★ キーロック時のセレクト使用 可能ON/OFF選択 (P29)	0-A 76000	★ E サーチバンドメモリーの内容確認 (P43)
S dLAY	★ サーチ/スキャンのポーズタイプ時の 停止時間選択 (P49)	A Scr-b	★ E サーチバンドメモリーのバンク切り替え (P43)
OFF bCLEAR	★ メモリーをブロックごとに消す機能 (P37)	000 Pr r-no	E デュアルワッチのプライオリティメモリー チャンネルの設定 (P50)



◆この表は、コピー等をして、切り取ってお使いください。

周波数・周波数ステップ・電波型式関係表

- オートステップとオートモードのときの周波数・周波数ステップ・電波型式は以下のようになります。また、周波数は以上～未満で表わしています。

周波数範囲	周波数ステップ	電波型式	主な受信局
0.10～ 0.52 MHz	1 kHz	AM	無線標識
0.52～ 1.62 MHz	9 kHz	AM	AMラジオ
1.62～ 29.00 MHz	5 kHz	AM	漁業、船舶、CB、短波ラジオ
29.00～ 35.53 MHz	10 kHz	FM	アマチュア無線
35.53～ 51.00 MHz	5 kHz	AM	船舶
51.00～ 54.00 MHz	20 kHz	FM	アマチュア無線
54.00～ 76.00 MHz	5 kHz	FM	防災無線、放送中継
76.00～ 108.00 MHz	50 kHz	WFM	FMラジオ、TV 1～3 CH
108.00～ 136.05 MHz	25 kHz	AM	航空無線
136.05～ 138.00 MHz	10 kHz	FM	気象データ
138.00～ 142.00 MHz	25 kHz	AM	航空無線
142.00～ 144.00 MHz	10 kHz	AM	鉄道
144.00～ 146.00 MHz	20 kHz	FM	アマチュア無線
146.00～ 170.00 MHz	10 kHz	FM	公共事業、業務無線、船舶
170.00～ 225.00 MHz	50 kHz	WFM	TV 4～12 CH
225.00～ 250.40 MHz	100 kHz	AM	航空無線
250.40～ 430.00 MHz	12.5 kHz	FM	鉄道、電気、水道、ガス、防災
430.00～ 440.00 MHz	20 kHz	FM	アマチュア無線
440.00～ 459.50 MHz	12.5 kHz	FM	タクシー
459.50～ 464.80 MHz	25 kHz	WFM	放送用
464.80～ 470.00 MHz	12.5 kHz	FM	業務、防災
470.00～ 810.00 MHz	25 kHz	WFM	TV 13～64 CH
810.00～ 940.00 MHz	12.5 kHz	FM	MCA、パナール無線
940.00～1260.00 MHz	100 kHz	WFM	放送用
1260.00～1300.00 MHz	20 kHz	FM	アマチュア無線

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または当社営業所、当社サービスセンターにご相談ください。

オプション(別売り品)の紹介

CLC400	ソフトケース
CSK15	スピーカー
CSA401	充電器
CNB401	ニッケド充電電池

定 格

一般仕様

周波数範囲	0.100MHz~1299.999MHz (一部の周波数帯を除く)
スピーカーインピーダンス	8 Ω
アンテナインピーダンス	50Ω
アンテナコネクタ	BNC
周波数ステップ	1kHz、5kHz、6.25kHz、9kHz、 10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、 25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、AUTO
メモリー数	メモリー 800チャンネル サーチバンドメモリー 20チャンネル サーチパスメモリー 90チャンネル
動作電圧範囲	DC 2.2V ~ 3.5V
定格電圧	DC 3.0V
使用電池	単 3 形マンガン電池、単 3 形アルカリ電池、 オブション・ニッカド充電電池(CNB401)
消費電流	
受信時	約125mA (AF OUT 60mW 8Ω)
待ち受け時	約65mA
バッテリーセーブ時	約16mA (設定: 1 秒)
本体寸法	58(幅)×97(高さ)×24(奥行き)mm (突起物除く)
本体質量	約200g (電池、アンテナ含む)
動作温度範囲	-10℃~+60℃

受信部

電波型式	A3E(AM)、F3E(WFM,FM)
受信感度	0.5MHz以上 5MHz未満
	AM 1.5μV (10dB S/N)
	5MHz以上 160MHz未満
	AM 1.0μV (10dB S/N)
	FM 0.5μV (12dB SINAD)
	WFM 0.7μV (12dB SINAD)
	160MHz以上 370MHz未満
	AM 1.0μV (10dB S/N)
	FM 0.7μV (12dB SINAD)
	WFM 1.0μV (12dB SINAD)
	370MHz以上 520MHz未満
	FM 0.5μV (12dB SINAD)
	WFM 1.0μV (12dB SINAD)
	520MHz以上 1300MHz未満
	FM 1.0μV (12dB SINAD)
	WFM 1.0μV (12dB SINAD)
オーディオ出力	約90mW(8Ω、10%歪時)

●本機の外観および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

さくいん

A	
AM	18
B	19, 40
F	iii
FM	18
P	iii
RFスケルチ	30
VFO状態	17
VFOリセット	9
WFM	18

あ

アッテネーター	30
アンテナ	5

運用モード	14
-------	----

オートステップ	24
---------	----

オートパワーオフ	25
----------	----

オートモード	14, 24
--------	--------

オールメモリスキャン	47
------------	----

オールリセット	9
---------	---

音量	8
----	---

か

拡張モード	14, 28
-------	--------

キーロック	23
-------	----

クイックエンコーダー	17
------------	----

さ

サーチ	19, 40
-----	--------

サーチ／スキャンの止まりかた	40
----------------	----

サーチの止まりかた	19, 40
-----------	--------

サーチバンドメモリー	40, 42~44
------------	-----------

サーチパスメモリー	44~46
-----------	-------

シグナルメーター	12, 31
----------	--------

シグナルメーターローセンス	31
---------------	----

周波数ステップ	24, 54
---------	--------

スキャン	47~49
------	-------

スケルチ	8
------	---

セットモード	53
--------	----

セレクト	17
------	----

た

電池	5
----	---

電波型式	18, 54
------	--------

デュアルワッチ	50
---------	----

は

バッテリーセーブ	25
----------	----

ビープ音	23
------	----

ビジータイプ	19, 40
--------	--------

表示部	12
-----	----

ファーストステップ	31
-----------	----

プライオリティメモリー	34, 50
-------------	--------

プリセットモード	14
----------	----

プリセットメモリー	16
-----------	----

ブロック	34
------	----

ブロックメモリスキャン	49
-------------	----

ポーズタイプ	19, 40
--------	--------

ホールドタイプ	19, 40
---------	--------

ま

マイキー	26
------	----

メモリー	34~38
------	-------

メモリアドレス	34
---------	----

メモリスキャンメモリー	48
-------------	----

メモリスワップ	38
---------	----

メモリープロテクト	37
-----------	----

メモリーモード	14, 34
---------	--------

モード	14
-----	----

ら

ランプ	22
-----	----

リセット	9
------	---

わ

ワンタッチサーチ	42
----------	----

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

お問い合わせは
最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。